

認知症初期集中支援チームのご案内

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けられるために。



認知症初期集中支援チームとは？

チーム員がご家庭を訪問し、心身の状況・生活環境の確認や相談を行いながら、生活上の困りごとに対して、医療・介護福祉サービスの必要性や日常生活のサポート方法などを提案します。ご相談についての費用はかかりません。

対象となる方は？

40歳以上の方で、自宅で生活されており、かつ認知症が疑われる方や認知症の方で、次の①～④のいずれかに該当する方

- ① 認知症の診断を受けていない方
- ② 継続的な医療を受けていない方
- ③ 介護保険サービスに結びついていない、又は中断している方
- ④ 認知症の症状が強いため、対応に困っている方



認知症初期集中支援チームのメンバーは？

金ヶ崎町地域包括支援センターの保健師、看護師、社会福祉士、介護福祉士と町内認知症サポート医2名（花憩庵クリニック、金ヶ崎診療所）で構成しています。

ご飯食べたっけか？



もう！さっき食べたばかりなのに

ご相談・連絡は

金ヶ崎町地域包括支援センター
☎ 0197-44-4560

認知症は加齢によるもの忘れとは違います。

認知症とは、脳の病気の一つで、脳の機能が低下して日常生活に支障が出ている状態のことをいいます。加齢によるものと思われがちですが、脳の病気によって起こる「症状」です。最も多いのは、アルツハイマー型認知症で、全体の6割を占め、次いで多いのが、脳血管性認知症とレビー小体型認知症が各1割です。



認知症と加齢によるもの忘れの違いは？

加齢によるもの忘れ

- ・ 経験したことの一部を忘れる
- ・ 目の前の人の名前が思い出せない
- ・ 物の置き場所を思い出せないことがある
- ・ 何を食べたのか思い出せない
- ・ 約束をうっかり忘れてしまった
- ・ 曜日や日付を間違えることがある
- ・ もの覚えがわるくなったように感じる
- ・ もの忘れの自覚がある

認知症の症状

- ・ 経験したことの全てをわすれている
- ・ 目の前の人が誰なのかわからない
- ・ 置き忘れ・紛失が頻繁になる
- ・ 食べたことじたい忘れている
- ・ 約束したことじたい忘れている
- ・ 月や季節を間違えることがある
- ・ 数分前の記憶が残らない
- ・ もの忘れの自覚がない

※NPO 法人地域ケア政策ネットワーク発行「キャラバン・メイト養成テキスト」より

気づいて
相談！

認知症の気づきチェックリスト

認知症による変化は、ゆっくり現れることが多いので、1年前の状況と今の状況を比べてみましょう。

- 通帳や印鑑など、大事なものを失くしたり、いつも探している。
- 人との約束や、新しいことが覚えにくくなった。
- 曜日や日付けがわからなくなることが多い。
- リモコンや洗濯機などの電化製品の操作がうまくできなくなった。
- イライラして怒りっぽくなったと思う（人に言われる）
- 料理の味が変わった（と言われる）、準備に時間がかかるようになった。
- 今まで楽しめていた事（趣味、人との交流、テレビ番組等）が楽しめなくなった。
- 一人でいるのが不安になったり、外出することがおっくうになった。